

時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況動
價の報告あり其代價は左の如し

一號 貳圓五厘〇一箇月 前金五拾錢〇三箇月 並
金壹圓四拾玉錢〇六箇月 前金貳圓八拾五錢〇一箇
年 前金五圓六十錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日每
始年東一切休刊せす）

五	露領浦、聖斯德、清國諸港	一箇月	金六拾五錢
四	香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸島、禁 洲	一箇月	金三拾錢
三	北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸島	一箇月	金六拾錢
二	南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を 經て郵送する歐洲各國	一箇月	金拾三錢
一	日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津		

時報新報局書局（前集）

卷一百一十五

日清貿易は實に世界に於ける東洋貿易の集注點にして毎年各

よりの輸入額は二億圓を越え、輸出額は一億五千萬圓に達せり。就中英國より輸入する綿布陶片等は年々六七千萬圓以上にして、北米合衆國の輸入品も殆んど之に匹敵せり。然るに隣邦なる我日本より支那に輸入する品物は、

に八九百萬圓に過ぎず我輩は今日支兩國の貿易に
對して聊か世人の注意を乞はんが爲めに先づ前數年間
における輸出入貨物の原價を對比し其如何に進歩をな

十二年 日本兩國間輸出入貨物原價對照表

此點に據れば明治二十四年以來は常に進歩の勢にして、母ち二十三年を二十八年に比すれば輸出に於ては六割餘、輸入に於ては一倍四割餘を増加せり若しも戰爭の

幸なれば三十七年及び二十八年には必ず一層の
如を見たりしとならん更に支那貿易に最も關係多き
日本と香港との間に於ける輸出入額を見るに左の如し

十二年と二十九年とを比較すれば輸出一億五割餘る

日清貿

の自由に航通往復するの権利を得又一般の内地に於て
品物を買入れ又は輸入するに當りて釐金税を免除せし
むる等の利益を收めたる其上に近日正に締結されんと
する通商條約にも貿易商貿を保護するの條項少なから
ざる可ければ我商人の便利は非常のものにして從前と
比較の限りに非ず此際大に奮發して彼の内地に直輸出
の道を開くときは人種文字と同ふし實に措するに諸種
の便宜に乏しからざる我國人にして他國人の後に落ち
が如きふとある可けんや今日は實に我商人の奮發を要
する時機なりと云ふ可し

面白くもない如斯つまらん事を、駄からよせなんかんと駄洒落と叩いて居るの段ではむざいませんで、實を申せば一昨夜いつぱい模様の千鳥足に相成り芝のあたらし橋通りをプラツキ廻りまする内フト牛久屋と書いた様な看牌を認めましたから、むら／＼ツと暴飲暴食の謀叛心を起しつゝ其處へ這入らうと致しまするどへ入らッしやいの聲が係りまして木札をさし出し代價は五錢とけつかるゆゑ、あれは讃たと思つて伺つ

て見ると牛屋ではございませんで、恵留十と申す寄席にござりまするあれはあのまゝ詰込まればならぬものか。但しは又出直しても善いものか、暫くは猶豫つて凝りとなく首をひねつて考へましたか、恵留十の看牌を逆様に讀むくらいのたゞひだから幾ら脇を絞つても十分なる智恵の出やう筈がございませんので、是非なくも膝職たる醉眼を擦りながら木札を手にしてしぶしぶ坐に通り立すれば、足を容るゝ程の席もない夥多しき人込、高嶋田に累の打點戯はふさ／＼ござらぬきたる

やら エ、と何やら諱の分らぬ言を怒鳴りつゝ肩を抱
後に搔つて見たり、片手をついて呻つて見たり。入笑人
の酒案でも聞いたかの如く果てはツチツンテンテン。
ツンテンシャンなども三昧でも抱へた所の手附やら手
真似やら。よもやみれでは本氣の妙達であるまいと思
つた御自分も、本氣でなかつたので、抑もくされ
ぬち所謂世話に奉る舊語案にござりまする、あの舊語
家と申すは今寝めて居るかと思ふと直に惡口を叩き揚
町の果ては解もない新聞記者などへ飛火尻が通り裏店

のれ三歳のより公卿衆の御夫人様方に至るまで萬衆庶
族の眞正中に於てまして御客様の眼前で御客様方を揚
げたり挾めたりそれを第一の好材料として出放題を競
舌ながら金錢を数枚と云ふ天下無雙の器量人、當夜れ
有に御用通りにわづかりまして唯誠心と申すの外は一
言もござりませぬ
是は何も申す器量人かと尋ねますればれくばどか金馬
とか云々と三事の達人との事、今しも其盛の頃合を

見えええじで済るいの件を批ひながら随時お聞きの八
人蔵、自分の所へとさりとするが某商等に於きまして
主人の不在中、大伴頭、小伴頭、寄つてたかつての大英
會サア、陽気にはらかせゝど、それつく、てんて

卷之三